

ミヤマセセリ

支笏湖国有林「CGC 烏柵舞の森」で植栽広葉樹の活着調査をしていました。3人1組で植え畝を横並びに進んでいましたら、小型の蛾が飛び立って前方に止まりました。デジカメを取り出してとりあえず撮影。2017年5月23日11時22分と画像に記録されました。

帰宅後に図鑑で調べました。愛用の図鑑「札幌の昆虫」の蛾の部分では見つかりません。希少種か?と思いましたが、念のため蝶の部分を探しますと、ミヤマセセリが後翅の模様パターンが一致しました。さらにネットでミヤマセセリの画像を検索して確認できました。出会ったのは♀でした。♂は前翅に白い部分がありませんし、後翅のオレンジ模様が♀に比べて小さいのです。



分布は日本全土、世界的には東アジア(極東ロシア、中国、台湾、朝鮮半島)とかなり広いようです。

幼虫の食草は支笏湖あたりではミズナラの葉、一般的にはクヌギ、カシワ、コナラとのこと。幼虫の画像をご覧ください。ハート型の頭でなまらメンコイではありませんか。ところがこいつはなかなかの知恵者でして、食草の葉の縁から内側に向けて2筋の切れ目をいれ、縁から内側に折り曲げてその中に隠れるしかけを作るとのこと。さらに蛹化する際には林床の落葉の2枚を口から吐く糸で縫い合わせて敷布団と掛布団のような感じで中に納まり、掛布団に逆さまに張り付いて羽化を待つとのこと。

タンポポやハルジオン等の花に寄り、吸蜜する他に鳥や獣の糞にも寄り、吸水もする逞しさがあるのです。セセリチョウ科の蝶にしては翅を開いて留まるのは変わり者です。広く分布しているのに過去に出会ったことがないのは、小型なことと、蛾のようなふるまいのために、見過ごしてきたものと思われる。♀の装いはなかなかのおしゃれで、蝶ランプの増版があるとすれば、どれかと入れ替えたいと思う次第であります。

広い烏柵舞の植栽地での活着調査でこの日歩いた歩数は16,000歩を超えていました。あと4か月後には傘寿に達する身には過酷な労働でしたが、この

ような巡りあわせもあることで、報われたことであります。